

第7 火山の活動状況及び被害状況

1 桜島の火山活動

(1) 平成24年の概況

平成24年、昭和火口の噴火活動は活発だった。噴火回数は1105回、そのうち爆発的噴火は883回で、大きな噴石がたびたび3合目（昭和火口から1300～1800m）まで達した。1月の噴火回数は190回、そのうち爆発的噴火は172回と、いずれも年間を通して最も多く、爆発的噴火の回数は、昭和火口の活動が2006年に再開して以降、最も多くなった。3月12日15時07分の爆発的噴火では、大きな噴石が2合目（昭和火口から2km付近）まで達した。また、ごく小規模な火砕流が3月22日00時55分に発生し、東へ約300m流下した。火砕流の発生は、2011年10月26日以来。5月23日14時54分及び24日04時29分の爆発的噴火では、やや多量の噴煙が火口縁上3500mまで上がった。噴煙が3000mまで達したのは2011年4月4日以来。7月24日19時15分には、南岳山頂火口で爆発的噴火が発生し、多量の噴煙が上がり、大きな噴石が4合目（南岳山頂火口より1300～1700m）まで達した。南岳山頂火口で爆発的噴火が発生したのは、2011年2月7日以来。この爆発的噴火以降、昭和火口の爆発的噴火は一時的にやや増加し、7月25日に9回、26日に8回発生した。9月24日12時52分の爆発的噴火では、東郡元空振計（昭和火口から西へ10kmの鹿児島地方気象台）で61Paの空振を観測した。この空振は、2006年以降活動を再開した昭和火口の噴火としては、東郡元空振計で観測された空振のうち、最も大きな値だった。

火山性地震は、おおむね少ない状態で経過した。震源は主に南岳直下の海拔下約0～3kmに分布し、桜島東部の海拔下約2kmや、北岳付近の海拔下約1～3kmにも分布した。火山性微動は、増減を繰り返しながら継続した。二酸化硫黄の1日あたりの平均放出量は多い状態が続き、12月はやや減少した。

地殻変動の状況については、桜島直下へのマグマの供給量の増加により、2011年11月頃から、山体がわずかに隆起する傾向が続いたが、2012年2月に入り停滞し、8月頃からわずかに沈降、11月に入り再び停滞した。GPS連続観測では、2011年9月頃からわずかな伸びの傾向が続いたが、2012年2月頃から鈍化し、6月頃から停滞、10月頃からわずかな縮みの傾向となった。また、南岳山頂火口で、7月24日19時15分に発生した爆発的噴火に前駆して、山体浅部が膨張源とみられるわずかな地殻変動が観測され、噴火後に急激な収縮が観測された。国土地理院のGPS観測結果では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられた。

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した、2012年の火山灰の総噴出量は約660万トン。2006年の昭和火口噴火再開以降の年別総噴出量の中で最大（これまでの最大は2010年の約510万トン）となった。

(2) 各月の経過

【1月～4月】（噴火警戒レベル3）

（3月12日に情報内容一部切り替え、同月21日に再び切り替え）

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火回数は、1月は190回（そのうち爆発的噴火は172回）、昭和火口の活動が2006年に再開以降、最多）、2月は103回（そのうち爆発的噴火は93回）、3月は128回（そのうち爆発的噴火は112回）、4月は127回（そのうち爆発的噴火は107回）だった。大きな噴石が3合目（昭和火口から1300～1800m）まで達した爆発的噴火は、1月と2月にそれぞれ6回、3月に3回、4月に4回発生した。3月12日15時07分の爆発的噴火では、大きな噴石が2合目（昭和火口から2km付近）に達し、同日15時35分、火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替え、警戒範囲を南岳山頂火口から概ね2km及び昭和火口から2kmを超えた居住地域近くの範囲（昭和火口から概ね2.4km）に拡大した。しかし、その後、大きな噴石が2合目まで飛散する爆発的噴火の発生はなく、また、地震活動及び地殻変動に特段の変化は認められず、噴火活動がさらに活発化する兆候は認められなかったため、3月21日11時00分に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替え、警戒範囲を昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmに縮小した。今期間の噴煙の最高高度は、火口縁上2000～2800m。また、3月22日00時55分には、ごく小規模な火砕流が発生し、東へ約300m流下した。火砕流の発生は、2011年10月26日以来のことだった。火山性地震の月回数は、1月785回、2月593回、3月892回、4月621回と少なかった。火山性微動の月回数は、1月223回、2月192回、3月480回、4月294回だった。二酸化硫黄の1日あたりの平均放出量は、1月1800～2800トン、2月2300～2900トン、3月2400トン、4月1800～2700トンと、多い状態だった。

【5月～6月】（噴火警戒レベル3）

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火回数は、5月が89回（そのうち爆発的噴火は64回）、6月が73回（そのうち爆発的噴火は51回）だった。5月には、大きな噴石が3合目まで達した爆発的噴火が4回発生し、23日14時54分及び24日04時29分の爆発的噴火では、やや多量の噴煙が火口縁上3500mまで上がった。噴煙が3000mまで達したのは2011年4月4日以来。6月は、大きな噴石が4合目（昭和火口から800～1300m）まで達した爆発的噴火は10回発生したが、3合目まで達した爆発的噴火はなかった。また、ごく小規模な火砕流が、5月21日と6月6日に発生した。火山性地震の月回数は、5月711回、6月924回と比較的少なかった。火山性微動の月回数は、5月439回、6月554回だった。二酸化硫黄の1日あたり

の平均放出量は、5月2200～2800トン、6月1800～3600トンと多い状態だった。

【7月～9月】(噴火警戒レベル3)

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火回数は、7月は76回(そのうち爆発的噴火は60回)、8月は59回(そのうち爆発的噴火は43回)、9月は73回(そのうち爆発的噴火は48回)だった。7月7日05時31分の爆発的噴火に伴って大きな噴石が3合目まで達した。なお、7月24日19時15分、南岳山頂火口で爆発的噴火が発生し、多量の噴煙が上がり、大きな噴石が4合目(南岳山頂火口より1300～1700m)まで達した。南岳山頂火口で爆発的噴火が発生したのは、2011年2月7日以来。この爆発的噴火以降、昭和火口の爆発的噴火は一時的にやや増加し、7月25日に9回、26日に8回発生した(26日14時21分の爆発的噴火では、やや多量の噴煙が火口縁上3200mまで上がった)。また、8月23日07時39分と、9月11日18時28分、9月24日12時52分の爆発的噴火の際、大きな噴石が3合目まで達した。9月24日12時52分の爆発的噴火では、東郡元空振計(昭和火口から西へ10kmの鹿児島地方気象台)で61Paの空振を観測した。この空振は、2006年以降活動を再開した昭和火口の噴火としては、東郡元空振計で観測された空振のうち、最も大きな値だった。9月11日15時55分の爆発的噴火では、やや多量の噴煙が火口縁上3500mまで上がった。火山性地震の月回数は、7月713回、8月370回、9月349回と少なかった。火山性微動の月回数は、7月473回、8月270回、9月283回だった。二酸化硫黄の1日あたりの平均放出量は、7月1800～3100トン、8月2600～3300トン、2700～3700トンと多く、7月31日に実施した調査では1日あたり5200トンと非常に多かった。

【10月～12月】(噴火警戒レベル3)

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火回数は、10月は61回(そのうち爆発的噴火は35回)、11月は71回(そのうち爆発的噴火は55回)、12月は55回(そのうち爆発的噴火は43回)だった。大きな噴石が3合目まで達する爆発的噴火が、10月27日21時58分と30日03時10分、11月は7回、12月10日05時25分と26日16時41分に発生した。10月7日、11月30日、12月26日に、ごく小規模な火砕流が発生し、11月30日と12月26日には東へ約500m流下した。火山性地震の月回数は、10月736回、11月635回、12月813回と比較的少なかった。火山性微動の月回数は、10月500回、11月363回、12月453回だった。二酸化硫黄の1日あたりの平均放出量は、10月は2100～2300トンと多く、10月29日には5700トンと非常に多い状態が観測された。11月は2100～2200トンと多く、12月は1200～1400トンとやや多かった。

南岳山頂火口では、2月13日にごく小規模な噴火が発生し(2011年12月13日以来)、6月にかけて時々、ごく小規模な噴火が発生した。7月24日19時15分には、2011年2月7日以来となる爆発的噴火が発生し、多量の噴煙が上がり、大きな噴石が4合目(南岳山頂火口よ

り1300～1700m)まで達した。10月から12月は時々ごく小規模な噴火が発生し、12月2日16時34分にはごく小規模と推定される爆発的噴火が発生した。

地殻変動の状況については、2011年11月頃から、桜島直下へのマグマの供給量の増加により、山体がわずかに隆起する傾向が続いたが、2012年2月に入り停滞し、8月からわずかに沈降、11月に入り再び停滞した。GPS連続観測では、2011年9月頃からわずかな伸びの傾向が続いたが、2012年2月頃から鈍化し、6月頃から停滞、10月頃からわずかな縮みの傾向となった。南岳山頂火口で、7月24日19時15分に発生した爆発的噴火に前駆して、山体浅部が膨張源とみられるわずかな地殻変動が観測され、噴火後に急激な収縮が観測された。国土地理院のGPS観測結果では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられた。

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した、火山灰の総噴出量は、1月は51万トン、2月は52万トン、3月は81万トン、4月は66万トン、5月は88万トン、6月は69万トン、7月は52万トン、8月は34万トン、9月は40万トン、10月は30万トン、11月は50万トン、12月は50万トン。2012年1月から12月までの総噴出量は約660万トン。2006年の昭和火口噴火再開以降の年別総噴出量の中で最大（これまでの最大は2010年の約510万トン）となった。

(3) 被害状況

平成24年（1月1日～12月31日）における桜島の火山活動による農作物の被害は、67億2782万円となった。

被害額	
(単位：千円)	
作物	被害額
野菜	3,197,340
花き	432,886
果樹	537,816
茶	1,671,587
葉たばこ	123,775
飼料作物	764,478
合計	6,727,882

(4) 火山情報の発表状況

- 3月12日15時35分 火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替え警戒範囲を南岳山頂火口から概ね2km及び昭和火口から2kmを超えた居住地域近くの範囲（昭和火口から概ね2.4km）に拡大
- 3月21日11時00分 火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替え警戒範囲を昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmに縮小

火山名 桜島 噴火警報（火口周辺）

平成24年3月12日15時35分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊＊（見出し）＊＊

<桜島に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替え>

火口から居住地近くまでの範囲で警戒が必要。

<噴火警戒レベル3（入山規制）が継続>

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

桜島の昭和火口で、本日（12日）15時07分に爆発的噴火が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が2合目（昭和火口より2km付近）まで達しました。

火口から居住地近くまでの範囲で弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

2. 対象市町村等

鹿児島県：鹿児島市

3. 防災上の警戒事項等

昭和火口及び南岳山頂火口から2kmを超えた居住地近くまでの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

降雨時には土石流に注意が必要です。

<噴火警戒レベル3（入山規制）が継続>

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地での避難の準備、災害時要援護者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて災害時要援護者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（平常）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 桜島 噴火警報（火口周辺）

平成24年3月21日11時00分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊＊（見出し）＊＊

<桜島に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替え>

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2 kmに警戒範囲を縮小

<噴火警戒レベル3（入山規制）が継続>

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

昭和火口では、12日15時07分に爆発的噴火が発生し、大きな噴石が2合目（昭和火口から2 km付近）まで達したことから、12日15時35分に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替え、警戒範囲を南岳山頂火口から2 km及び昭和火口から2 kmを超えた居住地域近くの範囲（昭和火口から概ね2.4 km）に拡大しました。

その後、大きな噴石が2合目まで飛散する爆発的噴火の発生はなく、また、12日15時07分の爆発的噴火の発生以降も地震活動及び地殻変動に特段の変化は認められず、噴火活動がさらに活発化する兆候は今のところ認められません。

以上のことから、警戒範囲を南岳山頂火口から2 km及び昭和火口から2 kmを超えた居住地域近くの範囲（昭和火口から概ね2.4 km）から、昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2 kmに縮小します。

桜島では活発な噴火活動が続いており、引き続き火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する恐れがありますので、それぞれの火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に対する警戒が必要です。

なお、火山活動の状況に変化が見られた場合は、随時、噴火警報または火山情報を発表します。

2. 対象市町村等

鹿児島県：鹿児島市

3. 防災上の警戒事項等

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2 kmの範囲では、引き続き噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

また、爆発的噴火に伴う大きな空振や、降雨時には土石流に注意が必要です。

<噴火警戒レベル3（入山規制）が継続>

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

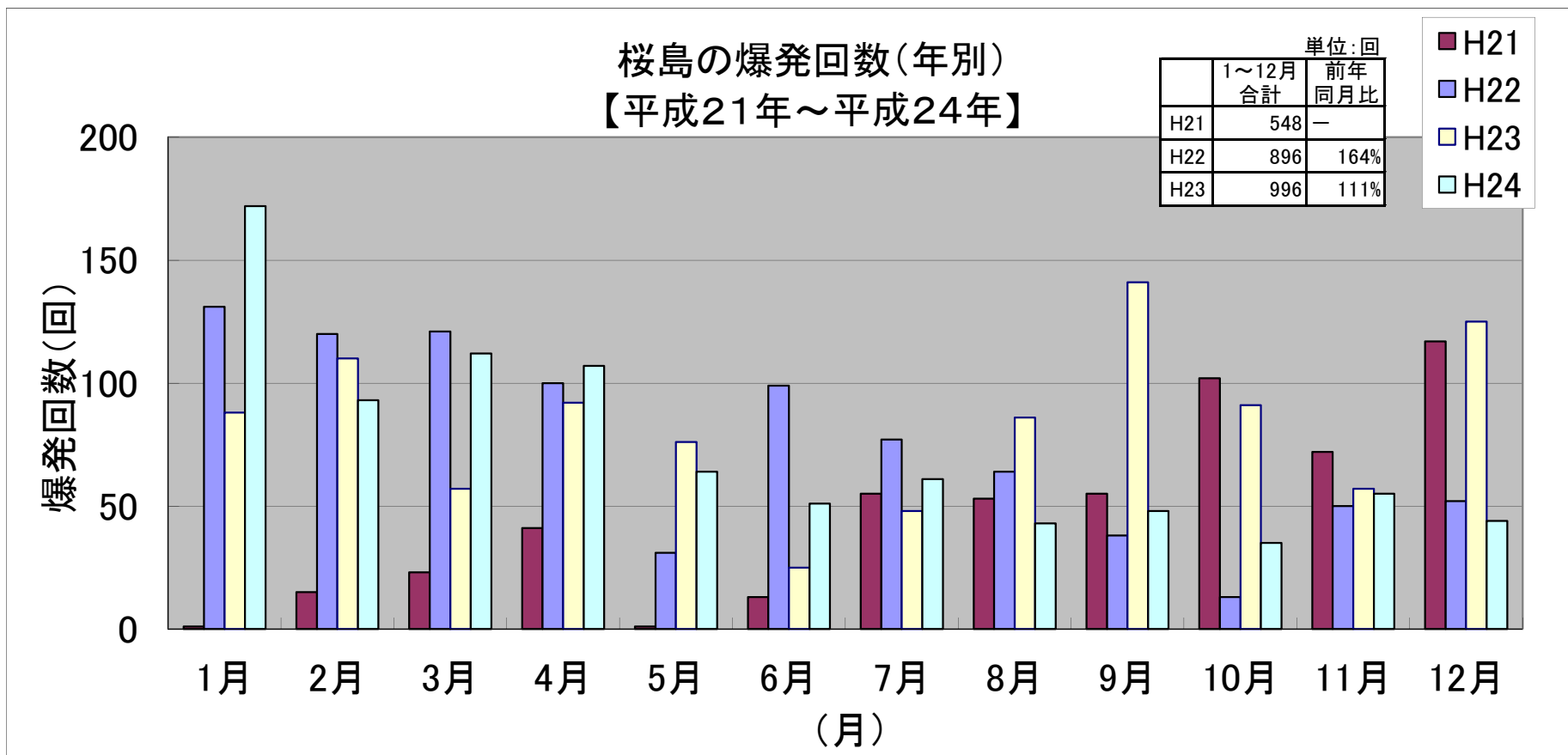
【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて災害時要援護者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

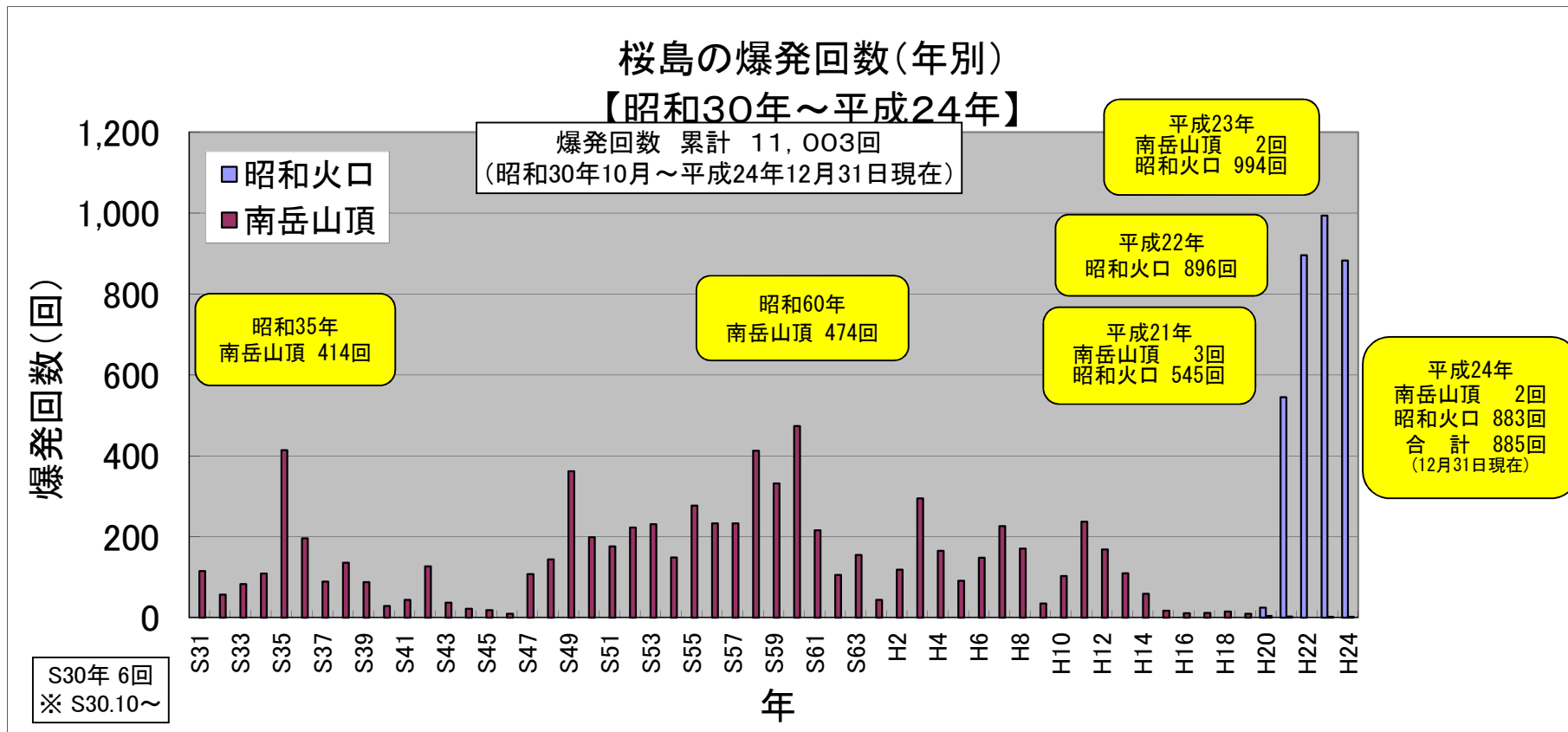
【レベル1（平常）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）



【桜島の爆発回数表】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H21	1	15	23	41	1	13	55	53	55	102	72	117	548
H22	131	120	121	100	31	99	77	64	38	13	50	52	896
H23	88	110	57	92	76	25	48	86	141	91	57	125	996
H24	172	93	112	107	64	51	61	43	48	35	55	44	885
うち南岳	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
うち昭和	172	93	112	107	64	51	60	43	48	35	55	43	883
(H24/H23)	195.5%	84.5%	196.5%	116.3%	84.2%	204.0%	127.1%	50.0%	34.0%	38.5%	96.5%	35.2%	88.9%

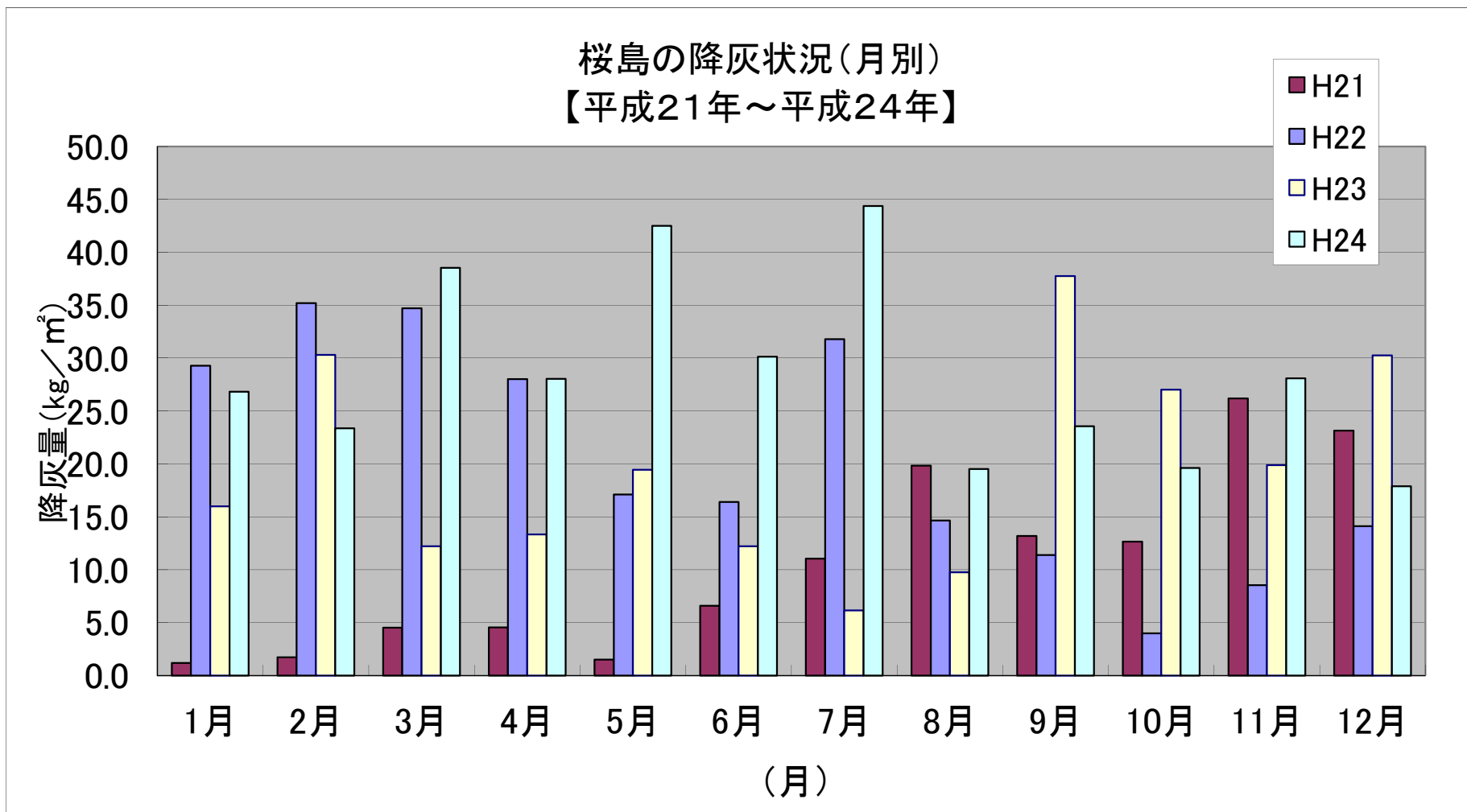


【桜島の爆発回数】単位:回

	S31	S32	S33	S34	S35	S36	S37	S38	S39	S40	S41	S42	S43	S44	S45	S46	S47	S48	S49
南岳	115	57	83	109	414	196	89	136	88	29	44	127	37	22	19	10	108	144	362
	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5
南岳	199	176	223	231	149	277	233	233	413	332	474	216	106	155	44	119	295	165	91
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
南岳	148	226	171	35	103	237	169	110	59	17	11	12	15	10	4	3	0	2	2
昭和	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	25	545	896	994	883
合計	148	226	171	35	103	237	169	110	59	17	11	12	15	10	29	548	896	996	885

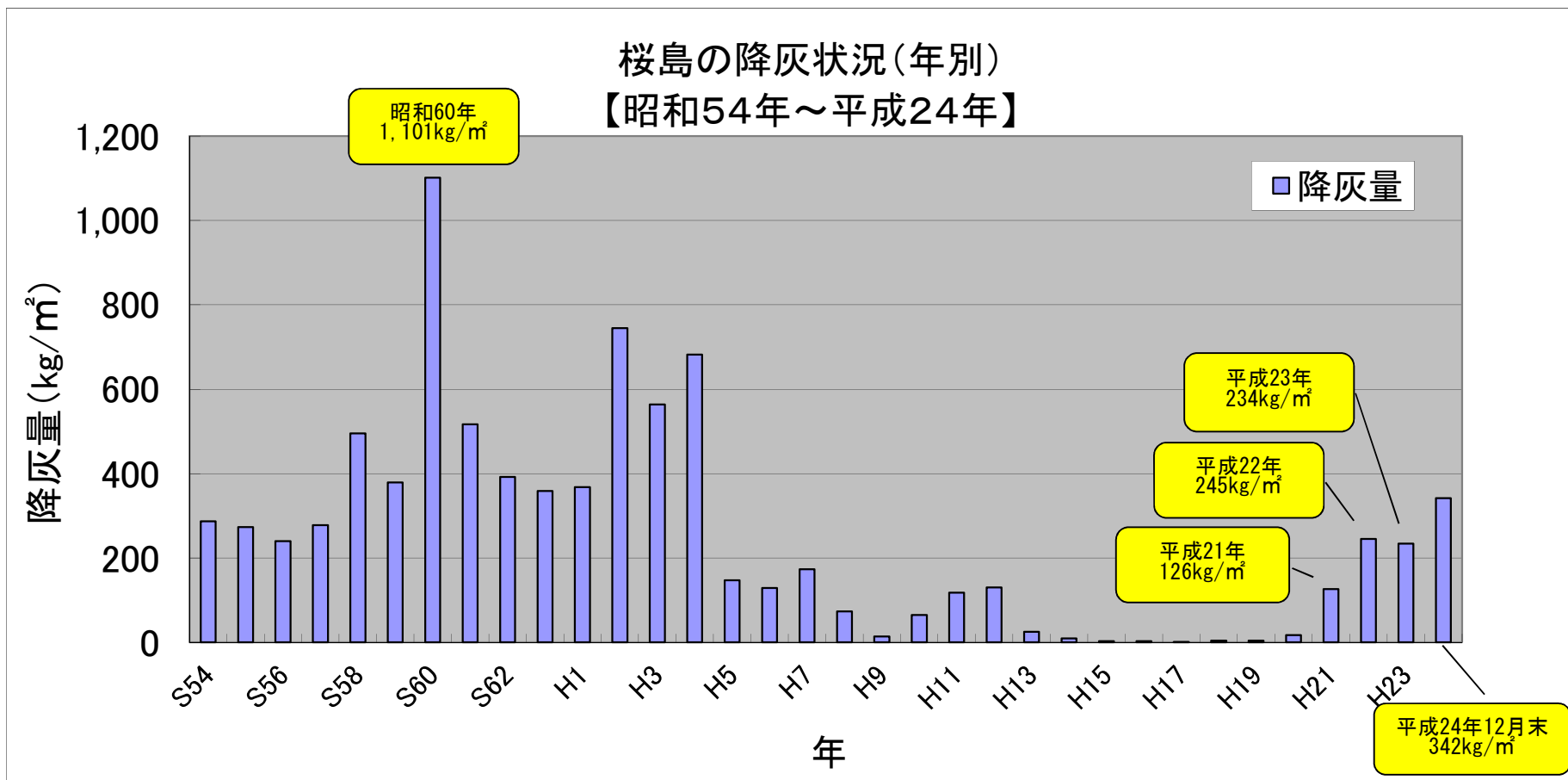
桜島の活動状況 (噴火・爆発回数)

	南岳		昭和火口		合計	
	年別		年別		年別	
	噴火	爆発	噴火	爆発	噴火	爆発
昭和31年		115				115
昭和32年		57				57
昭和33年		83				83
昭和34年		109				109
昭和35年		414				414
昭和36年		196				196
昭和37年		89				89
昭和38年		136				136
昭和39年		88				88
昭和40年		29				29
昭和41年		44				44
昭和42年		127				127
昭和43年		37				37
昭和44年		22				22
昭和45年		19				19
昭和46年		10				10
昭和47年		108				108
昭和48年		144				144
昭和49年		362				362
昭和50年		199				199
昭和51年		176				176
昭和52年		223				223
昭和53年		231				231
昭和54年		149				149
昭和55年		277				277
昭和56年		233				233
昭和57年	372	233			372	233
昭和58年	643	413			643	413
昭和59年	388	332			388	332
昭和60年	540	474			540	474
昭和61年	271	216			271	216
昭和62年	221	106			221	106
昭和63年	220	155			220	155
平成元年	110	44			110	44
平成2年	261	119			261	119
平成3年	409	295			409	295
平成4年	329	165			329	165
平成5年	151	91			151	91
平成6年	277	148			277	148
平成7年	326	226			326	226
平成8年	224	171			224	171
平成9年	45	35			45	35
平成10年	178	103			178	103
平成11年	386	237			386	237
平成12年	306	169			306	169
平成13年	141	110			141	110
平成14年	76	59			76	59
平成15年	29	17			29	17
平成16年	23	11			23	11
平成17年	17	12			17	12
平成18年	36	15	15	0	51	15
平成19年	13	10	29	0	42	10
平成20年	5	4	75	25	80	29
平成21年	20	3	735	545	755	548
平成22年	0	0	1023	896	1023	896
平成23年	2	2	1353	994	1355	996
平成24年	2	2	1105	883	1107	885



【桜島の降灰量(20km以内:33地点)】単位:kg/m²

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H21	1.2	1.7	4.5	4.5	1.5	6.6	11.0	19.8	13.2	12.7	26.2	23.1	126.1
H22	29.3	35.2	34.7	28.0	17.1	16.4	31.8	14.6	11.4	4.0	8.5	14.1	245.2
H23	16.0	30.3	12.2	13.3	19.4	12.2	6.2	9.8	37.8	27.0	19.9	30.2	234.3
H24	26.8	23.4	38.5	28.0	42.5	30.1	44.4	19.5	23.5	19.6	28.1	17.9	342.4
(H24/H23)	167.7%	77.1%	315.7%	210.4%	218.6%	246.5%	721.2%	199.8%	62.4%	72.6%	141.2%	59.1%	146.1%



【桜島の降灰量(20km以内:33地点の合計値)】単位:kg/m²

S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4
287	273	240	278	495	379	1,101	517	392	359	368	745	564	682

H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
147	129	173	73	14	65	118	130	25	9	3	3	1	4

H19	H20	H21	H22	H23	H24
4	17	126	245	234	342

桜島降灰量

平成24年

………No. 1 噴火日より20km以内 3.3か所

単位：g/m² ※平成23年1月以降、新燃岳の降灰が含まれている

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月～当月計			
	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量
湯之平(旧桜島町)	85	19	656	11	893	11	3,028	3	1,751	8	1,405	6	2,032	5	3,175	1	998	8	1,320	4	2,252	5	507	9	18,102	6		
二俣上(旧桜島町)	1,577	6	2,564	2	6,303	1	2,197	5	1,368	10	1,189	8	7,163	2	1,967	2	2,809	2	444	12	4,595	1	836	7	33,012	2		
二俣(旧桜島町)	562	11	1,491	6	3,366	5	1,049	9	707	16	1,067	11	524	13	909	7	1,932	5	256	17	3,129	3	491	12	15,483	10		
武(旧桜島町)	329	13	565	12	1,555	10	996	10	935	13	651	15	826	10	1,589	5	467	13	858	7	968	7	656	8	10,395	14		
藤野(旧桜島町)	513	12	505	13	2,177	6	1,739	6	563	19	323	19	462	14	459	15	744	11	250	18	900	10	860	6	9,495	15		
赤水(旧桜島町)	97	18	190	18	193	20	354	18	2,629	5	4,185	1	11,191	1	1,658	3	653	12	1,011	5	575	14	110	21	22,846	4		
小池(旧桜島町)	58	21	369	16	301	19	819	11	403	21	1,239	7	6,438	4	1,312	6	210	17	613	9	891	11	182	18	12,835	13		
高免(鹿児島市)	1,086	8	1,060	8	3,536	4	520	15	1,117	12	1,713	5	1,143	7	670	10	2,682	3	420	13	901	9	255	16	15,103	11		
國山(鹿児島市)	1,965	5	1,483	7	1,850	7	419	17	2,122	7	524	17	821	11	1,604	4	3,227	1	533	11	452	15	1,485	4	16,485	9		
黒神(鹿児島市)	2,513	3	1,761	4	4,534	3	2,769	4	2,926	4	3,940	2	6,502	3	192	19	1,750	7	625	8	658	13	1,699	2	29,869	3		
有村(鹿児島市)	9,109	1	5,348	1	5,582	2	3,659	1	4,086	3	1,038	12	1,122	8	863	8	955	9	3,823	1	4,150	2	4,889	1	44,624	1		
湯之(鹿児島市)	244	14	176	19	561	15	659	12	6,400	2	2,566	4	296	18	714	9	1,759	6	3,148	2	930	8	225	17	17,678	8		
持木(鹿児島市)	238	15	167	20	565	14	526	14	7,004	1	3,293	3	238	21	669	11	2,515	4	2,501	3	799	12	155	20	18,670	5		
桜島口(垂水市)	2,331	4	2,181	3	1,781	8	3,466	2	1,493	9	1,020	13	392	17	173	21	441	14	387	15	2,719	4	1,557	3	17,941	7		
海淵(垂水市)	2,833	2	1,598	5	1,558	9	1,287	8	654	18	236	24	394	16	223	18	792	10	1,005	6	1,308	6	1,346	5	13,234	12		
垂水(垂水市)	1,174	7	728	9	733	13	183	23	442	20	103	27	51	25	39	28	37	28	575	10	262	20	493	10	4,820	18		
牛根籠(垂水市)	883	9	685	10	469	17	1,345	7	726	15	1,145	9	159	22	28	30	240	240	16	49	27	436	16	6,657	16			
終原(垂水市)	654	10	491	14	519	16	348	19	368	23	88	28	39	27	46	27	27	32	400	14	188	21	327	13	3,495	22		
二川(垂水市)	209	16	472	15	831	12	653	13	788	14	626	16	747	12	101	22	152	18	88	24	403	17	320	14	5,390	17		
市役所(鹿児島市)	13	30	99	23	100	22	160	25	1,265	11	1,073	10	932	9	355	17	55	26	172	20	293	18	62	26	4,579	19		
坂元(鹿児島市)	33	22	113	22	100	22	282	21	274	26	250	22	259	19	551	14	38	27	107	22	138	24	68	25	2,213	24		
吉野(鹿児島市)	72	20	215	17	427	18	424	16	292	25	294	20	243	20	624	13	123	19	282	16	185	22	166	19	3,347	23		
丸岡(鹿児島市)	15	27	30	27	55	28	175	24	94	29	39	30	7	33	186	20	35	29	50	26	32	31	24	30	742	29		
東開(鹿児島市)	23	23	15	31	44	30	25	32	392	22	286	21	43	26	39	28	270	15	207	19	65	27	73	23	1,482	25		
広木(鹿児島市)	7	31	21	29	12	32	39	30	2,302	6	511	18	410	15	442	16	79	24	88	24	127	25	40	27	4,078	21		
谷山(鹿児島市)	5	32	6	33	7	33	10	33	294	24	115	26	9	31	48	26	111	21	99	23	38	29	26	29	768	28		
城南(鹿児島市)	22	24	78	24	67	26	150	26	696	17	698	14	1,579	6	629	12	92	23	157	21	280	19	69	24	4,517	20		
福山	14	29	67	25	40	31	35	31	21	32	0	33	127	24	12	31	14	33	5	33	14	33	0	33	349	33		
輝北	103	17	126	21	102	21	187	22	113	28	246	23	9	31	4	33	33	30	20	30	49	28	290	15	1,282	26		
加治木	15	27	22	28	59	27	83	28	21	32	55	29	16	30	75	23	99	22	15	32	182	23	22	32	664	31		
隼人	3	33	13	32	46	29	41	29	23	31	27	32	24	28	8	32	120	20	30	29	33	30	24	30	392	32		
始良	19	25	47	26	78	25	98	27	169	27	154	25	154	23	73	24	32	31	49	27	119	26	101	22	1,093	27		
吉田	17	26	21	29	82	24	312	20	50	30	29	31	22	29	72	25	57	25	19	31	23	32	34	28	738	30		
月計	26,821		23,363		38,526		28,037		42,488		30,128		44,374		19,509		23,548		19,606		28,094		17,884					
累計	26,821		50,184		88,710		116,747		159,235		189,363		233,737		253,246		276,794		296,400		324,494		342,378					
鹿児島地方気象台	4		26		12		19		1,658		951		293		142		194		153		137		13					

桜島降灰量

平成24年

………No. 2 噴火口より20km以遠 2.9か所 (H23.3月までは2.6か所)

単位：g/m² ※平成23年1月以降、新燃岳の降灰が含まれている

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月～当月計		
	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	順位	量	
国分	21	5	38	3	33	8	14	14	12	14	6	31	6	3	12	19	5	41	2	9	9	43	3	14	7	280	8
溝辺	3	15	4	12	15	12	6	19	3	21	4	16	3	12	3	13	6	12	7	2	17	54	1	7	11	126	12
蒲生	7	9	9	10	39	5	65	3	96	2	129	2	20	6	38	4	24	5	9	9	32	5	22	4	490	6	
霧島	7	9	10	9	19	11	3	21	7	17	7	13	2	14	2	15	8	8	3	15	6	14	4	14	78	15	
栗野	1	19	1	19	1	22	1	24	3	21	1	25	1	17	2	15	1	17	1	20	14	10	1	20	28	23	
郡山	12	7	23	4	33	8	41	7	151	1	75	3	29	4	40	3	84	1	58	1	17	8	9	9	9	572	3
松元	6	11	14	7	41	4	51	5	61	4	157	1	69	3	98	2	38	3	27	3	9	12	9	9	9	580	2
日吉	10	8	17	6	10	14	31	8	45	5	68	4	89	1	150	1	26	4	30	2	19	6	16	6	511	5	
串木野	1	19	3	17	3	18	24	11	7	17	20	8	14	7	10	7	2	13	9	9	5	15	2	16	100	14	
金峰	1	19	1	19	1	22	3	21	25	9	28	7	4	11	7	10	14	6	18	5	3	16	2	16	107	13	
宮之城	1	19	1	19	7	16	9	17	26	8	5	15	1	17	1	18	1	17	1	20	1	20	1	20	2	56	18
東郷	1	19	1	19	2	20	29	9	1	25	2	22	2	14	8	9	2	13	2	17	2	18	1	20	53	21	
知覧	1	19	1	19	2	20	4	20	16	11	4	16	1	17	1	18	4	10	3	15	1	20	1	20	39	22	
笠沙	1	19	1	19	1	22	1	24	4	20	4	16	0	25	1	18	2	13	4	14	1	20	1	20	21	24	
枕崎	3	15	4	12	4	17	11	16	13	13	3	20	1	17	2	15	3	11	5	13	3	16	2	16	54	20	
大隅	4	14	4	12	31	10	53	4	5	19	39	5	83	2	4	11	7	9	1	20	7	13	5	13	243	9	
財部	1	19	7	11	11	13	15	13	2	23	8	12	5	8	1	18	1	17	1	20	1	20	1	20	6	59	17
大崎	30	3	4	12	36	6	43	6	29	7	6	14	1	17	1	18	1	17	1	20	19	6	14	7	185	10	
志布志	6	11	1	19	1	22	1	24	2	23	2	22	1	17	1	18	1	17	1	20	1	20	1	20	1	19	25
喜入	2	17	2	18	3	18	9	17	12	14	11	10	2	14	1	18	1	17	8	12	1	20	4	14	56	18	
山川	2	17	1	19	1	22	2	23	1	25	1	25	0	25	1	18	0	26	1	20	0	26	1	20	1	11	26
鹿屋	89	2	62	2	91	3	108	1	83	3	12	9	28	5	9	8	2	13	20	4	51	2	34	2	589	1	
高山	109	1	72	1	111	2	95	2	31	6	11	10	5	8	4	11	1	17	14	7	35	4	51	1	539	4	
大根占	20	6	13	8	36	6	27	10	23	10	2	22	5	8	3	14	1	17	15	6	10	11	22	4	177	11	
内之浦	30	3	21	5	145	1	23	12	9	16	3	20	1	17	4	11	3	11	2	17	16	9	32	3	289	7	
佐多	5	13	4	12	9	15	14	14	10	15	4	16	1	17	1	18	1	17	11	8	2	18	1	20	63	16	
霧島田口	0	27	0	28	0	28	0	27	0	27	0	27	0	25	0	27	0	26	0	27	0	26	0	27	0	0	28
牧園高千穂	0	27	0	28	0	28	0	27	0	27	0	27	0	25	0	27	0	26	0	27	0	26	0	27	0	0	28
菱刈	0	27	1	19	1	22	0	27	0	27	0	27	0	25	0	27	0	26	0	27	0	26	0	27	0	2	27
月計	374		320		687		683		679		637		371		422		281		256		353		264		264	-	-
累計	374		694		1,381		2,064		2,743		3,380		3,751		4,173		4,454		4,710		5,063		5,327		5,327	5,327	5,327
観測地点 6.2か所 月計	27,195		23,683		39,213		28,720		43,167		30,765		44,745		19,931		23,829		19,862		28,447		18,148		18,148	-	-
〃 累計	27,195		50,878		90,091		118,811		161,978		192,743		237,488		257,419		281,248		301,110		329,557		347,705		347,705	347,705	347,705

2 霧島山の火山活動

① 新燃岳

(1) 平成24年の概況

新燃岳では今期間、噴火は発生しなかった(最後の爆発的噴火は2011年3月1日、噴火は2011年9月7日)。新燃岳の北西数kmの地下深くのマグマだまりへの、深部からのマグマの供給が停止した状態が続いた。

しかし、火口やその直下には高温の溶岩が溜まっており、新燃岳直下の火山性地震も続いたことから、突発的な噴火が発生する可能性があり、マグマだまりに蓄積された多量のマグマが上昇すれば、噴火活動が再び活発化する恐れがあるとして、噴火警戒レベル3(入山規制)が継続した。6月には、新燃岳浅部の活動が低下し、爆発的噴火により大きな噴石が2kmを超えて飛散する可能性は低くなったとして、26日18時00分に、火口周辺警報(噴火警戒レベル3・入山規制)の内容を切り替え、新燃岳火口からの警戒範囲を、それまでの「概ね3km」から「概ね2km」に縮小した。火口には高温の溶岩が溜まっており、小規模な噴火が発生する可能性は否定できないとして、警戒が続いた。

火山性地震は、1月の発生が797回、2月が610回と、初めやや多かった。その後は徐々に減少し、5月には発生回数が82回と、昨年(2011年)の活発な噴火活動前とほぼ同程度にまで減少した。その後、8月に一時的に地震回数が増えた日もあったが、年末にかけて少ない状態が続いた。

火山性微動は、2月に振幅が小さく、継続時間の短いものが1回発生しただけだった。

火山ガス(二酸化硫黄)の1日あたりの平均放出量は、1月が200～500トンと少なく、2月以降はさらに減少し、5月以降は検出できない月もあった。

(2) 各月の経過

【1月～4月】(2011年3月22日以降、噴火警戒レベル3継続。警戒範囲は新燃岳火口から概ね3kmの範囲)

新燃岳で噴火は発生しなかった。白色の噴煙が火口縁上概ね50～100mで経過し、2月には最高で600mに達した。火口内に蓄積された溶岩の大きさ(直径約600m)や形状、及び周辺の噴気の状態に特段の変化はなく、主に溶岩の北側、及び東側から白色の噴煙が上がっているのが確認された。一部には二酸化硫黄を含む青白色のガスを確認した。

火山性地震は、1月797回、2月610回、3月368回、4月356回と、やや多い状態が続いた。

火山性微動は、2月に、振幅が小さく、継続時間の短いものが1回発生しただけだった。

火山ガス(二酸化硫黄)の、1日あたりの平均放出量は、1月が200～500トン、2月が200トン、3月と4月は100トンと、少ない状態が続いた。

【5月～7月】(噴火警戒レベル3継続。6月26日18時、警戒範囲を新燃岳火口から概ね2kmの範囲に縮小)

新燃岳で噴火は発生しなかった。新燃岳浅部の活動も低下しており、爆発的噴火により大きな噴石が2kmを超えて飛散する可能性は低くなったとして、6月26日18時に、警戒範囲を新燃岳火口からおおむね2kmに縮小した。噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上概ね100m前後で経過した。火口内に蓄積された溶岩の大きさや形状、及び周辺の噴気の状態に特段の変化はなかった。

火山性地震の発生回数は、5月が82回、6月が23回、7月が17回と減少し、昨年の、活発な噴火活動前とほぼ同程度となった。

火山性微動は、発生しなかった。

火山ガス(二酸化硫黄)は、5月と7月は検出できなかった。6月の1日あたりの平均放出量は100トンと、少なかった。

【8月】(噴火警戒レベル3継続)

新燃岳で噴火は発生しなかった。30日14時頃から17時頃にかけて、新燃岳の南西付近を震源とする振幅のやや大きな火山性地震が一時的に増加したが、その他の活動に特段の変化はなかった。噴煙活動にも特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上概ね100m以下で経過した。火口内に蓄積された溶岩の形状、及び周辺の噴気の状態にも特段の変化はなかった。

火山性地震は30日に一時的に増加したが、その他は1日あたり0～2回で、月回数は37回と少ない状態が続いた。

火山性微動は発生しなかった。

火山ガス(二酸化硫黄)は、31日に実施した現地調査で、最大放出量が1日あたり10トンとごく少ない状態だった。

【9月～12月】(噴火警戒レベル3継続)

新燃岳で噴火は発生しなかった。噴煙活動にも特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上概ね50m以下で経過した(9月には最高で200mに達した)。火口内に蓄積された溶岩の形状、及び周辺の噴気の状態に特段の変化はなかった。

火山性地震は、9月が69回、10月が49回、11月が40回、12月が25回で、6月から8月と比較するとわずかに多い状態が続いた。

火山性微動は発生しなかった。火山ガス(二酸化硫黄)は、9月は、26日に実施した現地調査で、最大放出量が1日あたり10トンとごく少ない状態だった。

② 御鉢

(1) 平成 24 年の概況

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなかった。火口縁を超える噴煙も認められなかった。平成19年12月1日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表して以降、予報警報事項に変更はない。

火山性地震は少ない状態で経過した（11月は、18日から19日にかけてわずかに増加したが、それ以外は少ない状態で経過）。4月と5月、7月は観測されなかった。

火山性微動は、9月18日に振幅が小さく継続時間の短いものを1回観測した。2010年11月10日以来の観測となった。微動発生時に表面現象や傾斜計に特段の変化は認められなかった。

(2) 各月の経過

【1月～12月】（噴火警戒レベル1）

火山性地震は、1月：3回 2月：3回 3月：1回 6月：4回 8月：2回 9月：1回 10月：2回 11月：13回 12月：2回。

火山性微動は、9月18日に、振幅が小さく、継続時間の短い火山性微動を1回観測した（火山性微動を観測したのは2010年11月10日以来）。それ以後、火山性微動は観測されていない。

(3) 霧島山（新燃岳）の火山情報の発表状況

6月26日 噴火警戒レベル3、入山規制を切り替え

新燃岳火口からの警戒範囲を、「概ね2km」に縮小

火山名 霧島山（新燃岳） 噴火警報（火口周辺）

平成24年6月26日18時00分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊＊（見出し）＊＊

<霧島山（新燃岳）に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替え>

新燃岳火口から概ね2 kmの範囲で大きな噴石に警戒が必要（警戒範囲を縮小）。

<噴火警戒レベル3（入山規制）が継続>

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

新燃岳では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止し、新燃岳浅部の活動も低下しており、爆発的噴火により大きな噴石が2 kmを超えて飛散する可能性は低くなったと考えられます。

しかし、火口には高温の溶岩が溜まっており、現在でも小規模な噴火が発生する可能性は否定できませんので、火口から概ね2 kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

2. 対象市町村等

宮崎県：小林市

鹿児島県：霧島市

3. 防災上の警戒事項等

火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です（警戒範囲を3 kmから2 kmに縮小）。

噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。霧島山上空の風情報に留意してください。

降雨時には泥石流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に留意してください。

火口から2 kmを超える範囲においても、これまでの噴火による火山灰などの堆積等により道路や登山道等が危険な状態となっている可能性があるため、引き続き、地元地方公共団体等が行う立入規制に従ってください。

<噴火警戒レベル3（入山規制）が継続>

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時
要援護者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制
等。状況に応じて災害時要援護者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（平常）】：火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

3 薩摩硫黄島の火山活動

(1) 平成 24 年の概況

一年を通して火山活動は静穏な状態で経過した。

噴煙活動は、白色噴煙が概ね火口縁上 300m 程度の高さで経過し、最高高度は 7 月で火口縁上 800m まで上がった。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性地震の年回数は 2,354 回で、月回数の最大は 7 月の 238 回、日回数の最大は 7 月 8 日の 12 回だった。

火山性微動は、3 回発生したが、いずれも継続時間が短く、振幅の小さいものだった。7 月 22 日から 27 日及び 11 月 17 日から 20 日かけて実施した現地調査では、前回 (2011 年 11 月) と比べて、噴煙活動の状況に特段の変化はなかった。赤外熱映像装置による観測でも、地表面温度分布に大きな変化はなかった。また、二酸化硫黄の平均放出量は 1 日あたり 400 ~ 500 トンと、前年 (2011 年 11 月) の 800 トンと比較して大きな変化はなく、引き続きやや多い状態だった。

(2) 各月の経過

【1 月～10 月】(噴火警戒レベル 2)

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は、やや高い状態が経過した。噴煙の色は白色で、高さは火口縁上概ね 300m 程度 (5 月は 600m、7 月は 800m、10 月は 700m) で経過した。

火山性地震は少ない状態で経過した。月回数は 1 月 (209 回)、2 月 (189 回)、3 月 (201 回)、4 月 (126 回)、5 月 (212 回)、6 月 (204 回)、7 月 (238 回)、8 月 (187 回)、9 月 (193 回)、10 月 (219 回) だった。

GPS 連続観測では、火山活動による特段の変化はなかった。

【11 月～12 月】(噴火警戒レベル 2(火口周辺規制)→レベル 1(平常)に引き下げ)

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は、やや高い状態が経過した。噴煙の色は白色で、高さは火口縁上で 11 月が 400m、12 月は 200m だった。

火山性地震は少なく、11 月 (168 回)、12 月 (208 回) だった。

11 月 25 日に実施した上空からの観測によると、従来と同様に東部の海岸を中心に褐色～緑色の変色水が見られた。また、硫黄岳の東側斜面、山頂火口から噴気が見られた。

12 月 26 日に実施した上空からの観測では、前回 (2011 年 12 月) と比べ、大きな変化はなかった。地表面温度分布も特段の変化はなかった。周辺の海岸付近では、火山活動に伴うと考えられる海水の変色が引き続き確認された。

11 月 29 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベル 2 から 1 に引き下げた。

(3) 火山情報の発表状況

11 月 29 日 噴火予報：警報解除

火山名 薩摩硫黄島 噴火予報：警報解除

平成24年11月29日11時00分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊＊（見出し）＊＊

<薩摩硫黄島に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）：警報解除を発表>

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなりました。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引下げ>

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

薩摩硫黄島では、2003年頃から活発な噴煙活動が続いていましたが、2009年中頃からやや低下した状態で経過しています。火山性地震も2009年3月頃から増加し多い状態で経過していましたが、2010年9月以降減少なくなっています。

11月17日から20日にかけて実施した現地調査では、前回（2012年7月）と同様、噴気地帯等の一部に高温域が認められる程度で、特段の変化は認められませんでした。

以上のように火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなりました。

なお、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量はやや多い状態が続いています。

2. 対象市町村等

鹿児島県：三島村

3. 防災上の警戒事項等

硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性があります。

また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引下げ>

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて災害時要援護者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（平常）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

4 口永良部島の火山活動

(1) 平成24年の概況

口永良部島の火山性地震は、1月上旬までやや多い状態で経過したが、震源は新岳火口付近のごく浅い所に分布し、これまでと比べ大きな変化はなかった。1月5日以降は静穏に経過した。火山性微動は少ない状態で経過したが、11月と12月は一時的に増加した。

噴煙などの表面現象の状況は、遠望観測では新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上50～100mの高さ（最高高度は400m）で経過した。

5月11日及び11月30日から12月4日にかけての現地調査の観測では、新岳火口内及びその周辺の地表面温度分布に特段の変化はなく、12月26日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊が実施した上空からの観測では、前回（2011年12月19日）と比べて噴煙活動に特段の変化は認められなかった。新岳火口では、主に南側火口内壁から白色の噴煙が火口縁上50m程度上昇し、南へ流れていた。赤外熱映像装置による観測では、新岳火口縁の南側には引き続き熱異常域が認められ、古岳火口内では、火口底から白色の噴気が高さ20m程度上昇していた。GPS連続観測では、火山活動と思われる変化は認められなかった。

5月10日と11月30日に実施した現地調査では、二酸化炭素の平均放出量は1日あたりそれぞれ20トンから30トンで少ない状態だった。

(2) 各月の経過

【1月】（噴火警戒レベル2（火口周辺規制）→レベル1（平常）に引き下げ）

噴煙活動は低調で、新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色噴煙が火口縁上100m以下の高さで経過した。火山性地震は1月5日以降は少ない状態で経過し、月回数は137回だった。震源は新岳火口直下のごく浅い所に分布し、火山性微動は確認されなかった。

1月20日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベル2から1に引き下げた。

【2月～12月】（噴煙警戒レベル1 平常）

火山活動は概ね静穏に経過した。噴煙活動は低調で、白色の噴煙が火口縁上概ね100～200m（最高高度は12月に400m以下、7月と9月は300m）で経過した。

5月及び11月、12月に実施した現地調査では、火口の膨張を示す特段の変化はなかった。

12月に実施した上空からの観測では、前回（2011年12月14日）と比べて、新岳火口及びその周辺の状況に大きな変化はなかった。

火山性地震は少ない状態で経過した。月回数は2月（41回）、3月（105回）、4月（40回）、5月（40回）、6月（67回）、7月（49回）、8月（60回）、9月（74回）、10月（82回）、11月（76回）、12月（105回）だった。火山性地震の震源はこれまで同様、新岳火口直下のごく浅い所に分布した。GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

(3) 火山情報の発表状況

1月20日 噴火予報：警報解除

火山名 口永良部島 噴火予報：警報解除

平成24年1月20日11時00分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊＊（見出し）＊＊

<口永良部島に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）：警報解除を発表>

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなりました。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引下げ>

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

口永良部島では、昨年（2011年）12月11日から火山性地震の回数が多くなり、火山活動が高まった状態となりましたが、12月25日頃から火山性地震の回数は緩やかに減少し、1月5日以降は少ない状態で経過しています。

その他のデータには、特段の変化は認められません。

以上のように、火山活動は低下しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなりました。

2. 対象市町村等

鹿児島県：屋久島町

3. 防災上の警戒事項等

新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。

また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引下げ>

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて災害時要援護者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（平常）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

5 諏訪之瀬島の火山活動

(1) 平成 24 年の概況

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火が時々発生し、噴火活動はやや活発な状態で経過した。爆発的噴火は3回で、前年(2011年の51回)と比べて減少した。

噴煙の最高高度は火口縁上 700m で、同火口では年間を通して、夜間に好感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を観測した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、御岳の南南西約 4km の集落で降灰を確認した日数は12日あった(前年は6日)。

12月26日に、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、御岳火口底の中央部で赤熱した溶岩が確認され、赤外熱映像装置による観測でも高温領域が認められた。

11月8日に実施した現地調査では前回(2011年11月15日)と比較して、火口内の形状などに特段の変化はなかった。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性地震の年回数はA型地震が258回(2011年は1324回)、B型地震が1075回(2011年は1799回)で前年と比べて減少した。

火山性微動は時々発生していたが、9月28日からはほぼ連続で発生した。火山性微動の年間継続時間は2406時間18分43秒だった。

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

(2) 各月の経過

【1月・2月・3月】

御岳火口では、爆発的噴火が1月12日(噴煙の最高高度：火口縁上300m)、2月6日(噴煙の最高高度：火口縁上400m)、3月6日(噴煙の最高高度：火口縁上200m)に発生した。

火山性地震は少ない状態で経過し、月回数はA型地震が1月(28回)、2月(42回)、3月(26回)で、B型地震は1月(179回)、2月(64回)、3月(20回)だった。火山性微動の継続時間の月合計は、1月(69時間24分)、2月(58分)、3月(17分)と徐々に減少した。

【4月】

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火は発生しなかった。

火山性地震は少ない状態で経過し、A型地震が21回、B型地震は85回で、B型地震は前月と比べてやや増加した。5日に火山性連続微動が発生し、火山性微動の継続時間の月合計は9時間26分と前月と比べて増加した。

【5月】

御岳火口では、爆発的噴火は発生しなかったが、25日、26日、28～30日にごく小規模な噴火が発生した。噴煙の最高高度は火口縁上600mだった。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、25日、28～30日に島内の集落(御岳の南南西4km)で降灰が確認された。

火山性地震は少ない状態で経過し、A型地震が11回、B型地震は205回で、B型地震は前月と比べ増加した。5日、25～26日に火山性連続微動が発生し、火山性微動の継続時間の月合計は40時間11分と前月と比べ増加した。

【6月】

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火は発生しなかったが、11日、13～14日にごく小規模な噴火が発生した。噴煙の最高高度は火口縁上300mだった。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、11日、13～14日に島内の集落(御岳の南南西4km)で降灰が確認された。

火山性地震は少ない状態で経過し、A型地震が21回、B型地震は116回だった。13～16日、20～22日に火山性連続微動が発生し、火山性微動の継続時間の月合計は132時間24分だった。

【7月・8月】

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火は発生しなかったが、8月19日に噴煙のみ確認され、高度は火口縁上300mだった。

火山性地震は少ない状態で経過し、月回数はA型地震が7月(29回)、8月(17回)、B型地震は7月(123回)、8月(39回)だった。

7月24～25日に火山性連続微動が発生し、火山性微動の継続時間の7月合計は38時間5分だった。8月は火山性微動が確認されなかった。

【9月】

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火は発生しなかったが、28日と30日にごく小規模な噴火が発生した。噴煙の最高高度は火口縁上400mだった。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、28日と30日に島内の集落(御岳の南南西4km)で降灰が確認された。

火山性地震は少ない状態で経過し、A型地震が37回、B型地震は86回だった。B型地震86回のうち54回が28日に発生した。27日以降、火山性連続微動が発生し、火山性微動の継続時間の月合計は67時間52分だった。

【10月】

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火は発生しなかったが、ごく小規模な噴火が断続的に発生した。噴煙の最高高度は火口縁上700mだった。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、2日と5日に島内の集落(御岳の南南西4km)で降灰が確認された。

火山性地震は少ない状態で経過し、A型地震が22回、B型地震は78回だった。B型地震78回のうち65回が7日から11日にかけて発生した。火山性連続微動が引き続き発生し、火山性微動の継続時間の月合計は705時間19分と前月と比べ大幅に増加した。

【11月】

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火は発生しなかったが、ごく小規模な噴火が断続的に発生した。噴煙の最高高度は火口縁上500mだった。

9日に実施した現地調査では、御岳火口から南西約2km付近でごく少量の降灰が確認さ

れた。また、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、25日に島内の集落(御岳の南南西4km)で降灰が確認された。8日に実施した文化火口における現地調査では前回(2011年11月)と比較して火口内の形状に特段の変化はなかった。

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性連続微動は、11月は常時発生し、火山性微動の継続時間の月合計は720時間だった。

【12月】

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火は発生しなかったが、4日と7日にごく小規模な噴火が発生した。噴煙の最高高度は火口縁上500mだった。

26日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、御岳火口底の中央部で赤熱した溶岩が見られ、温度分布においても高温域が認められた。

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性連続微動が引き続き発生し、火山性微動の継続時間の月合計は622時間23分だった。

※なお、A型地震とは、P相やS相が明瞭で高周波成分が卓越する地震、B型地震とは、P相やS相が不明瞭で低周波成分が卓越する地震である。

(3) 火山情報の発表状況

火山情報の発表はない。